

ポーランド国内治安関連統計

1 2018年第2四半期(7月~9月)治安統計

国家警察本部が発表した統計によると、2018年第3四半期(7月~9月)の犯罪認知件数は11万3,626件で、対前年同期比28.7%減、対前期比32.2%減となった。今期は、強姦の認知件数が大幅に増加している点が特徴的である。

警察によると、強姦認知件数の増加は刑法改正によるもので、従前、被害者による自己申告のみとされていた同犯罪の認定範囲が第三者による通報を含むものに拡大されたことが影響しているとされる。

その他の犯罪類型については多少の件数増減はあるものの、おおむね全般的な認知件数減少の流れは継続しており、当地の治安情勢は引き続き改善傾向にあると評価できる。

殺人:	130件(対前年同期比	16.1%増	対前期比	26.2%増)
傷害:	2,476件(同	13.2%減	同	10.9%増)
暴行:	859件(同	17.4%減	同	7.5%減)
強姦:	659件(同	185.3%増	同	181.6%増)
強盗:	1,236件(同	18.1%減	同	10.8%減)
窃盗:	25,084件(同	8.7%減	同	40.2%増)
車両窃盗	1,559件(同	29.6%減	同	5.8%増)
侵入盗:	14,323件(同	0%減	同	11.2%増)
薬物犯罪:	12,301件(同	9.9%増	同	9.7%減)
偽造:	4,431件(同	7.8%減	同	0.3%増)

2 邦人被害事案

- (1) 8月、クラクフ市内で、邦人旅行者がかばんから旅券及び貴重品を盗難された。
- (2) 8月、クラクフ内内で、邦人旅行者が旅券及びクレジットカードを盗難された。
- (3) 8月、クラクフ市内で、邦人旅行者が旅券を盗難された。

3 邦人以外の被害事案(参考になり得る事案)

- (1) 7月15日夕方5時頃、ヴロツワフ中心部の観光客が集まる商店で、韓国人女性がポーランド人男性に差別的な暴言を浴びせられ、暴行される事案が発生した。事件当時、男は酒に酔っていたとされ、被害者を中国人と誤認し、中国人を罵る内容の暴言を浴びせ、暴行したとされる。男は現場から逃走したが、目撃者の通報を受けた市警備局に拘束された(国家警察本部ウェブサイト)。
- (2) 7月28日深夜1時頃、ビドゴシチ市内中心部の路上で、男性が背後から鋭利な刃物で刺され重傷を負う事案が発生した。警察が監視カメラの映像等を下に捜査を進めた結果、同事案は同市在住の14歳の少年によるものと判明し、少年は警察に拘束された。同少年には多数の補導歴があり、事件当時は酒に酔った状態で、理

由無く無差別に襲撃を行ったとされる（国家警察本部ウェブサイト）。

- (3) 国家警察本部は、オストロウエンカ（ワルシャワの約120キロ北東）で、車上強盗に関与した容疑でジョージア人グループを摘発した。同グループは、7月22日、オストロウエンカ市内の両替所に入った女性客の車のタイヤをパンクさせ、両替を終え、車両を発進させようとした女性がパンクに気づき車両を停止させた隙に車両の助手席側のガラスをたたき割り、女性のかばんを強奪したとされる。警察は、同グループが使用していた盗難車から容疑者の身元を割り出し、事件の2日後、ジョージア人男性3人を逮捕した。（国家警察本部ウェブサイト）。
- (4) 8月29日、ワルシャワ南部ヤンキのショッピングモールで、銀行への資金搬入を目的に車で同モールに到着した中国人が覆面を被った4人組に襲撃され、約150万ズロチを奪われる強盗事件が発生した。目撃者は現場で発砲があったと証言しており、少なくとも1人が負傷し、救急車で病院に搬送された（国家警察本部ウェブサイト）。

4 テロ・爆弾事件発生状況

発生は確認されていない。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

(1) 日本人の被害

発生は確認されていない。

(2) 外国人の被害

8月31日夜、オポルスキエ県ストシュエルツェ・オポルスキエの路上で、2歳半の子どもが車内に引きずり込まれて、連れ去られた。子どもの母親から通報を受けた警察が捜査を行った結果、誘拐犯は被害者の父親で、子どもを英国に連れ去る目的でベルリンに移動したことが判明した。誘拐犯は、ベルリンの空港でドイツ警察に拘束され、子どもは母親の元に戻された（国家警察本部ウェブサイト）。

6 日本企業の安全に関する諸問題

特になし。

(了)